

旭川市報道依頼

各報道機関 様

KJ00005878

2022年11月24日

発信課	総務部行政改革課
担当者	水沢 悠
連絡先	電 話 0166-25-6205
	F A X 0166-24-7833
	E-mail gyokaku@city.asahikawa.lg.jp

分 類	イベント・行事 <input checked="" type="checkbox"/> 募集 <input type="checkbox"/> 契約・入札 <input type="checkbox"/> 会議・説明会 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/>
日 程	令和4年11月28日（月）15:30～16:00
発表項目 (行事名)	大分県中津市とのDX連携協定締結について
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	<p>「DX倍速 旭川と中津が協定」 本市と大分県中津市は、双方の資源を有効に活用することでDXを推進し、相互の市民サービスの向上、業務の効率化を進めるため連携協定を締結します。 旭川市と中津市は、自治体規模などから異なる得意分野を持っていますが、同じ目的でDXを進めています。北海道、九州と遠く離れた自治体がデジタルの力で距離に関係なく繋がり、互いの持つ強みを共有することで、自治体DXを効果的に進めていくことが可能になります。</p> <p>・日時 令和4年11月28日（月）15:30～16:00</p> <p>・場所 旭川市会場 旭川市総合庁舎2階 第2応接室 中津市会場 中津市役所 4階 応接室</p> <p>・連携の意義： <input checked="" type="checkbox"/> 自治体同士が連携することで、成功事例のノウハウを素早く共有でき、同じ試行錯誤を繰り返さず、DXを効果的かつ効率的に進めることができる <input checked="" type="checkbox"/> 互いの強み（大規模自治体は業務効率化の効果が大きく、小規模自治体は個別の市民ニーズに柔軟に対応できるなど）を活かしたDXの知見を共有 <input checked="" type="checkbox"/> デジタル技術を活用することで、物理的な距離に関係なく連携できる。両市が同じ目標に向かうことで、職員の視野が広がり、DX人材育成に繋がる。</p> <p>・その他 両市の会場をオンラインで繋いで締結式を行います。</p>
添付資料	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
報道（取材）に当たってのお願い	・感染予防対策としてマスク着用、手指消毒等に御協力をお願い申し上げます。
備 考	・15時から会場に入室可能です。 ・タブレットや大型モニターを用いてオンラインで協定の締結式を行います。両市長の署名はモニターに映し出されます。



大分県中津市とのDX連携協定締結について

担当：行政改革課 水沢（0166-25-6205）

DX倍速 旭川と中津が協定

本市と大分県中津市は、双方の資源を有効に活用し、相互の市民サービスの向上と業務の効率化を進めるため、DX連携の協定を締結します。

【協定締結式】

日時：11月28日（月）15：30～

場所：旭川市役所 2階 第2応接室

* オンラインで両市を繋いで行います



経緯

- 旭川市はR4.4に森本CD0を迎えてDXを加速。職員1人1人がデジタルを活用するための手法の1つとしてノーコードツールを検討。
- 中津市はR3.4に東DX推進監を迎えてDXを推進中。総務省の地域情報化アドバイザー制度で研修講師を務めた東氏が旭川市に「中津流DX」を紹介。
- 両市のDX担当がチャット上で情報交換をする中、今後も継続的に連携することで互いの自治体DXを加速できるとの意見で一致。

連携の意義

- 自治体同士が連携することで、素早く成功事例のノウハウを共有し、同じ試行錯誤を繰り返すことなく、効果的にDXを進めることができる
- 互いの強み（大規模自治体は業務効率化の効果が大きく、小規模自治体は個別の市民ニーズに柔軟に対応できるなど）を活かしたDXの知見を共有できる。
- デジタル技術を活用することで、物理的な距離に関係なく連携できる。両市が同じ目標に向かうことで、職員の視野が広がり、DX人材育成に繋がる。

具体的な連携内容

【旭川市⇒中津市】

- 窓口改革、システム標準化やガバメントクラウドに関する進捗状況の共有
- 業務フロー分析による内部事務改善事例の共有
- 職員による業務改善の共有

【中津市⇒旭川市】

- デジタルツールの市民サービス活用事例
- 職員研修・意識醸成手法の共有

互いの情報共有はビジネスチャットやクラウド上のデータストレージを活用しています。



LoGoチャット



北海道旭川市

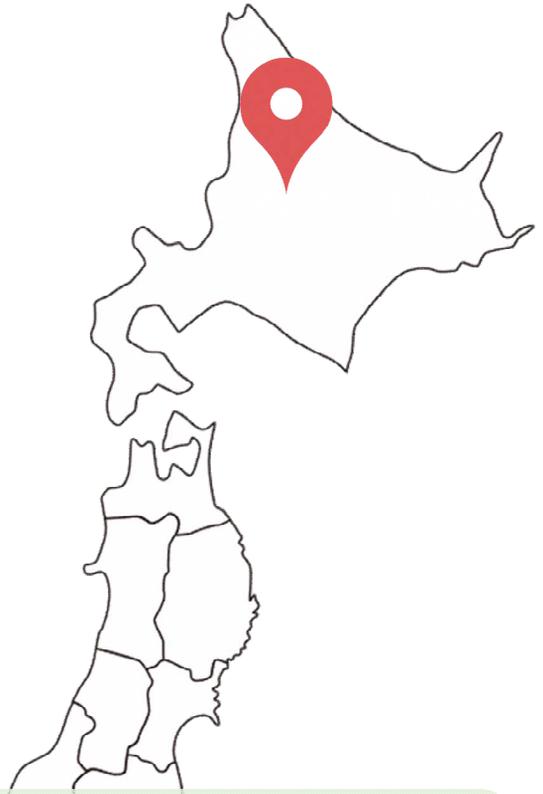
人口：32.5万人

面積：747.66km²

北海道のほぼ中央で雄大な大雪山連峰に抱かれ、石狩川と多くの支流が合流し、肥沃な盆地が広がっています。

時代の変遷を積み重ね、道北の要、交通の要衝・物流の集積地として発展。北海道No.1の生産量を誇る米どころで、家具などの魅力からユネスコ創造都市ネットワークに認定されたデザイン都市です。99%の空港就航率。旭山動物園や雪質が良いスキー場などに、国内外から年間500万人を超える観光客が訪れます。

今年で市制施行100年を迎え、次の100年に向け新たな一歩を踏み出しています。



大分県中津市

人口：8.3万人

面積：491.44km²

大分県の西北端に位置し北西は福岡県に接し、北は周防灘に面しています。市域の約80%は山林原野が占め、山国川下流の平野部にまとまった農地が開けています。

古くから製造業が盛んで、現在は自動車関連産業を中心に企業立地が進んでいます。一方、山間部は「名勝耶馬溪」に代表される豊かな自然景観を誇ります。福澤諭吉先生が幼少青年期を過ごした地であり、一万円札肖像交代を機に「不滅の福澤プロジェクト」が進行中。



協定締結式 次第

日時：11月28日（月）15：30～16：00

場所：旭川市会場 旭川市総合庁舎2階 第2応接室

中津市会場 中津市役所 4階 応接室

※ 両市の会場をオンラインで繋いで行います

1. 出席者紹介

旭川市長 今津 寛介（いまず ひろすけ）
CDO（最高デジタル責任者） 森本 登志男（もりもと としお）

中津市長 奥塚 正典（おくづか まさのり）
DX推進監 東 富彦（あずま とみひこ）

2. 協定の概要説明

3. 協定の締結

タブレット上で行う署名がリアルタイムでモニターに映し出されます

4. 挨拶

旭川市長、中津市長それぞれから挨拶

5. 質疑応答